№.１５	提　案　名：とちぎから社会の若きリーダーを生み出す ―学生・若者のチャレンジ応援コミュニティづくり―
	提案団体名：宇都宮市創造都市研究センター アントレプレナー研究グループ　Ａ班
	所　　属：宇都宮共和大学　シティライフ学部／作新学院大学　経営学部・人間文化学部／帝京大学　経済学部地域経済学科／文星芸術大学　美術学部
	代　表　者：齋藤　陽夏　　指導教員：西山　弘泰、春日　正男、渡邊　瑛季
メンバー	佐藤　雅哉、菊地　円樺、宇梶　宏海、安野　巧真、中野　文華、山内　祥輝、碓氷　瑞紀、趙　志浩

○　提案の要旨

本プロジェクトは、宇都宮市の高校生や大学生などの若者のチャレンジ精神や主体性を引き出すことを目的にした「U チャレンジ寺コミュニティ」の実践活動を通した、コミュニティの場を提案する。

近年、新たな事業を生み出したり、発見したりする力として、アントレプレナーシップが注目を集めており宇都宮市でも様々なアントレプレナーシップ育成の取り組みがなされている。しかし、その取り組みでは専門的な知識を共有する講演をしたり、起業するための話をしたりなど起業へのハードルを下げるものではあるが、起業に対して少しでも興味がなければ参加しにくいものである。そのため若者の多くは起業や創業についてのハードルは高いままで、起業について思い及んだが諦めることや、思い及ばないのが現状である。そこで本プロジェクトでは「チャレンジをしたいが、何を、どうすればよいかわからない若者」や「自分の何かを変えたいと思っている若者」が集い、チャレンジしたいことや悩みを共有し支えあうコミュニティを創出することで「はじめの一歩」を後押しし、チャレンジする経験を積むことで小さなアントレプレナーシップ育成を図る。

また、小さなチャレンジする経験を若者に積ませることで今後の宇都宮市の成長市場の創出を図ることに繋がる。そして、現在急速に進んでいるスマートシティ化に対し、小さいころから ICT を使っている若者の力は非常に重要となってきます。その若者に対しチャレンジしやすい環境にすることで宇都宮市の産業や街づくりの進展に大きく寄与することが期待される。

１．提案の背景・目的

本プロジェクトは、宇都宮市内４大学（作新学院大学・宇都宮共和大学・帝京大学宇都宮キャンパス・文星芸術大学）と宇都宮市、宇都宮商工会議所、企業、NPO 等によって構成されるまちづくりプラットホーム「宇都宮市創造都市研究センター」の学生研究員（４大学連携ゼミ・アントレプレナー研究グループ）によって構成されている。この研究グループでは、参加する学生たちのアントレプレナーシップを養成するとともに、様々な主体と連携し、最終的には報告者たちが様々な事業を展開することを目指している。

2020 年 9 月のキックオフイベントでは、栃木県内における若者の起業支援をする NPO 法人とちぎユースサポーターズネットワークの岩井俊宗氏をコーディネーターに、㈱エンターテインの常川朋之氏や高校生で起業した舘野知紘氏の講演をお聞きし、アントレプレナーシップとはいかなるものなのかを学んだ。その後、宇都宮市産業政策課との意見交換やうつのみや次世代産業イノベーション推進会議が主催する「オープンセッションフライデー（全国の起業家たちとの Web 交流イベント)」に参加した。これらの活動を通して私たちが考えたのは「自分の意思やアイデアで

事業を起こし、成し遂げたことがないのに、起業家などの話を聞いてもピンとこない」ということであった。また、「何かをやってみろ」と言われても、チャレンジし成功した体験が少ない若者にとっては、失敗を恐れるあまり、「なかなか行動に移せないのではないか？」と感じた。おそらく、チャレンジすることへの漠然とした不安から解き放たれない限り、起業創業の大きなチャレンジや、アントレプレナーシップを持った若者人材の増加も期待できないと考えた。

そこで本プロジェクトでは、アントレプレナーシップを高めるための第一ステップとして、小さなチャレンジする機会を与えること、不安等の相談に乗ること、それらを共有できるコミュニティを創出することで「はじめの一歩」を踏み出す場づくりを目指す。

２. 提案の目標・課題「スマート×風土 うつのみやのデザイン」との関連

この提案の目標は気軽にチャレンジしやすくなるコミュニティを作ることである。現在の社会では何かチャレンジしたいことがあっても失敗を恐れたり、周りに迷惑をかけることを恐れたり、何かしなければと考えても何も思い浮かばないため、アントレプレナーシップまで考えが及ばない現状がある。そこで、宇都宮市のアントレプレナーシップ育成を起業をしやすくなるようにハードルを下げるのではなく、気軽にチャレンジする文化を新たに生み出すことでアントレプレナーシップを持った若者の総数を増やすことに注目した。この総数を増やすことにより、現在行われている宇都宮市でのアントレプレナーシップ育成と組み合わせることで、さらに起業を考えやすい「風土」が定着していくと考える。その結果、スマートシティ化が進んでいる宇都宮市で ICT を小さなころから活用している若者が気軽に発言し、地域発展及び、スマートシティ化に大きく寄与することに繋がる。本プロジェクトでは将来のスマートシティ化に向けたチャレンジ精神や想像力、主体性を持った人材を育成することを目指す。

３. 現状分析～チャレン寺Ｕコミュニティ開催までの過程～

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言等により、本格的な事業開始は 2021 年 4 月となったが、宇都宮市創造都市研究センターアントレプレナー研究グループの活動開始である 2020 年 9 月から、「U チャレンジ寺コミュニティ」が開始される 2021 年 11 月までの事業過程について以下に示す。

３．１　宇都宮市産業政策課とのディスカッション

宇都宮市の地域活性化を図るためアントレプレナーシップ育成について私たちが新たにできることはないか考えるべく宇都宮市産業政策課とディスカッションを行った。そこで、オープンセッションフライデーというイベントについて知り、スタッフとして参加することが決まった。

３．２　オープンセッションフライデーに参加した結果

起業や創業に興味がある方などに様々な業種・分野の方たちの「出会い」の場となるイベントオープンセッションフライデーでは専門的な内容の話や起業家の話は学生にとってハードルが高く、学生の参加者がほぼいなかったことが印象的であった。そこで、提案者らは起業や創業に興味があることからチャレンジしたいと思っていることにハードルを下げ、学生・若者向けのアントレプレナーシップ育成の「出会い」の場を創出することを考えた。

３．３　若者の起業支援、不登校サポートの事業者へのヒアリング調査結果

まず若者の起業支援について NPO 法人とちぎユースサポーターズネットワークの岩井氏にヒアリング調査を行った。アントレプレナーシップ育成について様々な団体が活動しているがそのほとんどがアントレプレナーシップに興味のない学生や若者にとってハードルが高くなってしまっており、チャレンジしたいと思っていることにハードルを下げたほうが学生のニーズは高いと

いう私たちの意見に対し、賛同をいただいた。
次にチャレンジしたい、自分を変えたいなどチャレンジ精神や悩みを持つ学生とのコミュニケーションの取り方を学ぶため 不登校サポートを行っている NPO 法人キーデザインの土橋氏にフリースクールでは不登校になってしまった学生とどんなコミュニケーションをとっているのかを教わった。

３．４　とちぎユースチャレンジ応援事業

イベント開催およびコミュニティ作成するにあたり、会場や講師の招致費用が必要である。そこで栃木県人権・青少年男女参画課の「とちぎユースチャレンジ応援事業」に応募し、書類審査、面接の結果、採択を受け、栃木県より 10 万円の補助を受けた。
また、その事業の一環として、9 月に㈱つばめソリューションの石川氏よりコミュニティの集客方法について集める人数や目的などにより集客方法が異なることを教わりました。また、イベントの達成状況の見方についてアドバイスをいただき、アウトプットとしてイベント終了後に LINE グループにて何か一つチャレンジしたことについて投稿してもらうことを決めた。

表１　チャレン寺Ｕコミュニティ開催までの過程

年度	月	事業名	連携・関連団体・企業
2020 年度	9	セミキックオフイベント	宇都宮市産業政策課、NPO 法人栃木ユースサポーターズネットワーク、(株)エンターテイン
2021 年度	4	宇都宮市産業政策課職員とのディスカッション	宇都宮市産業政策課
	5-6	起業家との web 交流イベント「オープンセッションフライデー」にスタッフとして参加	宇都宮市産業政策課、NPO 法人栃木ユースサポーターズネットワーク、(株)エンターテイン
	6	若者の起業支援、不登校サポートの事業者へのヒアリング調査	NPO 法人とちぎユースサポーターズネットワーク、NPO 法人キーデザイン
		とちぎユースチャレンジ応援事業採択	栃木県民生部人権・青少年男女参画課
	9	光琳寺住職井上広法氏への講師依頼、企画説明	光琳寺
		とちぎユースチャレンジ応援事業におけるブラッシュアップ研修（㈱つばめソリューション石川社長）	(株)つばめソリューション、栃木県民生部人権・青少年男女参画課
	10	ワークショップ内容の議論	光琳寺、NPO 法人栃木ユースサポーターズネットワーク
	11	第１回チャレン寺Ｕコミュニティの開催（11/26）	光琳寺、栃木県民生部人権・青少年男女参画課
	2	コミュニティ形式のためのシンポジウムと成果報告会	光琳寺

３．５　光琳寺住職　井上氏に講師依頼、企画説明

井上広法氏は、現在宇都宮市西原地区光琳寺で住職をされており、仏教を用いた社会活動から人気テレビ番組をプロデュースする異色の僧侶である。また佛教大学で浄土学を学んだ後、東京学芸大学に再び入学し臨床心理学を学んだ。現在、宇都宮共和大学・非常勤講師もされている。その井上氏広法氏に企画を説明し、第１回、第４回イベントの講師、すべてのイベントでのコーディネーターを依頼した。また、イベントの会場が光琳寺に決まった。

３．６　ワークショップ内容の議論

参加者がチャレンジするハードルを下げるためにはどのような内容が良いのか、第１回目の講師の井上氏と会議を行った。そこで最初に参加者の心を落ち着かせ、チャレンジをするためにマインドフルネス瞑想法を使った内容にすることを決めた。また、NPO 法人とちぎユースサポーターズネットワークの岩井俊宗氏に企画を説明し、第２回イベントの講師を依頼した。

写真１　キックオフイベント

写真２　宇都宮市産業政策課職員などとのディスカッション

写真３　オープンセッションフライデーへの参加

写真４　県補助金に基づくブラッシュアップ研修

４. 施策事業の提案

４．１　チャレン寺Ｕコミュニティ第１回イベント開催概要

日　　時	１１月２６日（金）19 時 00 分～20 時 30 分
会　　場	浄土宗　光琳寺　（宇都宮市西原 1-4-12）
講　　師	光琳寺　住職　井上　広法　氏
内　　容	マインドフルネス瞑想法をワークショップを交えながら学ぶ

11 月 26 日（金）１９時から光琳寺にてチャレン寺Ｕコミュニティ第１回イベントを開催した。講師＆コーディネーターは、住職の井上広法氏に務めて頂き、「マインドフルネス瞑想法」をテーマに実施した（ワークショップ形式）。イベントではマインドフルネス瞑想法を簡単に体験するために鐘の音を使ったものやいつでもできるように呼吸に意識を向けたやり方を学習した。また、マインドフルネスとは刺激と反応の間にある認知を深く見つめなおす位置にあることも学んだ。イベントには作新学院大学、文星芸術大学、宇都宮短期大学附属高校から合計７名が参加した。今後も当メンバーでコミュニティを形成し、小さな一歩を踏み出すトレーニングを行っていく。

写真５　チャレン寺Ｕコミュニティ　第１回イベントの様子

４．２　参加者の声

参加者らは、マインドフルネス瞑想をした経験がなく初めての体験であり、「雑念を感じた」「集中力がないことを実感した」など、一つのことに意識を集中し続けることが自分たちの認識以上にできないという声が聞かれた。また、マインドフルネス瞑想をすることで「心が落ち着き、体の調子がよくなった」という声もあった。さらに「お寺でのイベントのため落ち着いて学ぶことができた」「非現実的な空間でおもしろい体験ができた」などお寺でのイベントに賛同する声も多く、今後のコミュニティ形成の可能性を感じた。

４．３　今後の事業計画

小さなチャレンジする機会を与えることや不安等の相談に乗るために LINE のグループ機能にてオンライン上でも話せるコミュニティを作成した。このグループにて毎回課題を出すことを計画している。これは、どのような小さなことでも良いので、２週間の間に小さな一歩（ハードルが低めの行動）を設定し、期間中に実行し、それを次の会で報告、参加者間で意見交換を行う。この自分で考え、行動することにより、チャレンジ精神の高揚を目指す。

１２月以降では４回程度集まりを行い、１月末に報告会を兼ねたシンポジウムを開催する。シンポジウムは、コミュニティに参加した若者が主催者となり、企画、運営を行う。50 名以上が入る公共施設を利用する予定である。このイベントを成功させることが、私たちメンバーの卒業試験になり、学生・若者がチャレンジし、それを応援する機会を創出するコミュニティづくりの実現に寄与できると考える。